

佐賀市 56 歴史探訪

たかぎせまちひらおきおこしじぞう 高木瀬町平尾の木起地蔵

高木瀬町の平尾天満宮境内のお堂に「木起地蔵」と呼ばれている小さな地蔵菩薩が祀られています。この地蔵菩薩は元々別のところに祀られていたものを動座したものと伝えられますが、今回は地元に残されたこの地蔵菩薩にまつわるお話を紹介します。

そのお話とは、次のようなものです。

昔この付近には神木として崇められていた大きなクスノキがありました。このクスノキが文政11年(1828)8月の大風で傾き、傍らに祀られていたお地蔵さんのお堂に倒れかかろうとしました。このままでは危険だということで、地元の庄屋さんや村人が話し合い、このクスノキを切り倒そうということになりました。するとその夜、このクスノキの辺りから「エイエイ」という人の声が聞こえたので、翌朝になって村人が見に行くと、驚いたことに倒れかかっていたクスノキが元どおり立ち直っていました。このことから、クスノキを起こしたのはお地蔵さんで、夜中に聞こえた声は木を起こすときのかけ声であったろうということになり、それからこのお地蔵さんを「木起地蔵」と呼ぶようになったそうです。その後この話が人々に広まり、数多くの方が参拝に訪れるようになったそうです。

現在この「木起地蔵」が祀られる平尾天満宮の境内にも樹齢270年と云われる大きなクスノキが生えています。お地蔵さんが起こしたクスノキもこのような巨木だったのかもしれません。

一口メモ

平尾天満宮の創建は、この地一帯を開墾するため移住してきた巨勢町平尾の人々が巨勢町平尾天満宮からの分霊を祀ったのが始まりとする説があります。江戸時代から天満宮の祭事には「平尾の餅相撲」と呼ばれる奉納相撲が行われ、現在も10月のお祭りでは子供相撲が催されています。



▲平尾天満宮



▲木起地蔵

